

静岡産業大学・中期計画＜2020年度～2024年度＞(2022/04/1ver)／アクションプランシート（スポーツ科学部）

スポーツ科学部	基本方針	2022年度スポーツ科学部は組織の能力向上と確立を図り、多角的に準備を行い2024年の完成年度を無事に迎えることを基本方針とする。 ①スポーツ科学部運営委員会、将来構想ワーキンググループ、各委員会活動を通して、経営学部と協働してスポーツ科学部の組織的活動を確立する。 ②半期ごとのPDCAサイクルを基本として各課題の可視化を図る。 ③磐田市や静岡県などとの地域連携を積極的に進める。					
	最重要事項		2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
	1. 2023年度入学者の安定的確保 1)入試制度を確実に実行し、定員120名を確保する。定員の1.3倍の156名も入学可能範囲とする 2)入試種別ごとの目標値を定めるとともに、スポーツレベリゼーション入試の推進を図る 2. 学生確保のための広報・募集活動の実施 1)入試広報における、Web、SNS等デジタル情報の提供の充実を図る 2)入学者実績高校への訪問を行う 3)静岡県内外や女子高校生への広報活動を積極的に行う 4)スポーツ科学部と経営学部の差異を明確に示すよう広報に努める		1.2 入学者の安定確保に関しては、スポーツ科学部と経営学部の差異化を図った入試広報が必須であり、最大限のwebの活用や受験生個々への郵送物も適宜行う。	入学者安定確保は、2学部の差別化を学部長・入試委員長・副学長と連携を図り、入試広報・入試要項に具現化し、受験生に向けてwebや郵送による個別の対応を行っている。上半期のオープンキャンパス、大学説明会等では手ごたえがある。 年内入試において定員確保という目標を立て、入試業務にあたっている。入試広報におけるWeb、SNS情報は段々と充実しているものの、受験へ結びつける結果とはなっていない面もあり、更なる工夫が必要である。経営学部との差別化は図られていると考えている。		◎学部長 ●副学部長 △入試課 △広報・メディア課 △高大連携・接続G	
	3. 認証評価の準備 1)4年間のアフターケアに十分応えられるような実績評価の基準作成と評価法の策定を図る 2)自己点検評価表の策定を行う 3)教員各自が「教育・研究・大学貢献・社会貢献」を計画的に立案する		3 文科省のアフターケアへの対応は2021年度と同様2022年度も"履修状況報告書"を作成・提出する。 2022年度に実施される認証評価に関しては、自己点検評価表を作成する。 教員人事評価作成については、教員各自が振り返りと計画立案の契機とする。	2022年度"履修状況報告書"は5月末に文科省に提出済み。学部長による教員人事評価面接は4月に行い、教員各自の計画実施を促した。 上期においては、本年度受審予定の認証評価実地調査の準備として、事務局として「BCPマニュアルの策定の検討」の検討等を行っている。		◎学部長 ●副学部長 ●事務局次長（磐田） △企画調整室 △総務課（磐田）	
4. 教育の質保証とその可視化 1)教育課程の準備状況の点検と確立を図る 2)3ポリシーの組織的浸透を図る 3)在学生の単位修得状況の把握と離学者対策を図る 4)学業と運動部活動の両立を図るよう、教職員が一体になって支援する		4 "教育の質保証とその可視化"に関しては、2021年度の準備状況点検・3ポリシーの浸透を図った実績を受け、2022年度も継続して行う。特に、学業と運動部活動の両立を図れるよう、基礎ゼミやスポーツ振興部の支援を受け状況把握に努める。	スポーツを「する」「みる」「ささえる」「知る」という多角的な視点から、スポーツを学ぶ学生の育成を図っている。 離学者対策では履修・単位取得・運動部部活動状況の入手、基礎ゼミ教員の対応を図った。 後期授業（専門ゼミ含む）や教職希望者へのオリエンテーション開催も実施予定。 在学生及び部活動学生の学業成績、履修単位などを把握するシステムを構築している。学業成績不振の部活動学生に対するケアのシステム作りを始めている。		◎学部長 ●副学部長 ●教務委員長 ●スポーツ振興部部長 △教務課（磐田） △スポーツ振興部		

	項目別アクションプラン				
	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<教育> 1. 教育方法の柔軟な対応 1)onlineと対面授業のバランスを図った実施 2)既存の教育機器の有効活用を図る 2. スポーツ科学部開設科目の中で、経営学部において前倒しして実施されている授業科目の点検 ・授業科目の実施報告をまとめる 3. スポーツ科学部において実施される授業科目の準備状況の確認 ・授業科目の準備状況をA：準備終了～D：未了の4段階で自己評価する。前期8月、後期2月に評価する 4. スポーツ振興部と連携を図り、スポーツ教育施設及び設備の点検及び充実と管理体制の確立を図る ・学校推薦型のスポーツ推薦入試受験生の把握と入学後の追跡を行う 5. 主任アドバイザー制度を継続して導入 6. 入学前の教員養成キックオフカンファレンス、在学時のオリエンテーションを実施する 7. 教職課程の準備と教員採用試験に向けた指導を図る → 1. 教育方法に関して2022年度もonlineと対面授業のバランスを図り実施する。 2・3. 科目実施に関して両学部での授業が順調に進んだかを半期毎に点検する。 4. スポーツ教育施設及び設備の点検等に関して、リスク管理体制を整備し、授業・部活・総合クラブ等が安全に利活用できるよう、半期に一度点検を行う。更に”スポーツ推薦入試受験生”の把握と入学後の追跡も半期に一度行う。 5・6・7. 入学した学生が卒業するまで、夢を実現できるよう様々な機会や期間を通して支援する。	教育方法では上半期は対面授業を積極的に行った。 スポーツ科学部とスポーツ振興部との連携により、施設・設備の点検・充実及び管理体制の確立を図るため、キャンパスマスタープラン委員会を設置して進めるよう提案した。その結果、予算作成時に広く要望を聞き、予算ヒアリングに繋げていくことになった。 入学前の教員養成キックオフカンファレンス、在学時のオリエンテーションを実施した。教職課程の指導に関しては、教職ゼミや関連授業で支援に努めている。 主任アドバイザー制度は継続したため、1・2年生の担当教員が各2名ずついるが、教員全体に情報共有がなされて、学生へのフォローが円滑に進んでいる。 前倒しして実施されている授業科目の点検は、2021年度調査において十分な準備が完了していることを確認している。 今年度より、教員採用試験の現役合格者を増やすことを目的として、月1回の教職ランチを開催している。		◎学部長 ●教務委員長 ●スポーツ振興部部長 ●学生委員長 △スポーツ振興部 △総務課 △学生支援課 △教職委員会 △教務課	
	<研究> 1. 紀要第7巻、第8巻の編集及び発刊；学部付置のスポーツ教育研究センターが発刊 ・スポーツ科学部教員全員の投稿を目指す 2. 編集委員会機能の確立 ・査読の厳格化を図る	紀要7巻1号は1件の投稿があり、審査中である。査読の厳格化が図られている。		◎学部長 ●スポーツ教育研究センター長 △いわた総合スポーツクラブ事務局	
	3. 倫理委員会の開催 1)年に2回開催し倫理規定をクリアした論文の掲載を促進する 2)2022年度から「スポーツ科学部」「経営学部」体制の倫理委員会の組織変更を行う	学部ごとに倫理委員会を行い、7月には第1回を開催し、10件の審査を行った。		◎学部長 ●研究倫理委員会委員長 △総務課（磐田）	
	4. 科学研究費の獲得を目指す ・50歳代以下教員は全員申請を目指す ・採択率40%（5件）を目標とする ・外部資金による研究費の獲得を目指し申請を行う	科学研究費獲得を目指すように上半期に周知した。 7月に実施の第4回両学部合同教授会において事務局主催の「科研費助成事業の公募説明会」と合わせて「公的研究活動における不正行為防止研究倫理研修会」を開催した。		◎学部長 ●学部長 △総務課（磐田）	

	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	5. SSUスポーツ・健康科学セミナーの開催 1)研究活動として、またFD活動の一環として、年に4回程度開催する 2)HPにおいて過去のセミナーを公開する 3)オンライン及び対面でのセミナーの計画を立案する	セミナー開催を支援する。 1)セミナーを上半期に1回開催した。 2)過去の開催セミナーは公開済み。 3)対面は感染症拡大の状況に応じて実施する。		◎学部長 ●スポーツ医科学研究センター運営委員長 △教務課	
	6. 学会活動の推進 ・関係学会における役職就任及び研究活動を推進する 7. 研究業績の拡大 ・研究論文/学会発表/著書の拡大に取り組む	本年度の学会等の役職就任、研究論文・著書発刊を推進した教員が多い。 学内で学生を対象とした調査、測定を実施し、研究活動を推進した。		◎学部長 ●スポーツ教育研究センター長 ●スポーツ医科学研究センター長 △教務課 △いわた総合スポーツクラブ事務局	
	8. スポーツ教育研究センター及びスポーツ医科学研究センターの活動推進 1)2021年度よりスポーツ科学部付置となった両センターの活動の強化を図る 2)紀要やニュースレターの発刊を行う	体力測定会を開催し、学生測定員を養成して、活動の強化を図った。 『スポーツと人間』7-1web発刊に着手。7月には静岡県スポーツ・文化観光部とスポーツ分野についての協力体制を構築した。		◎学部長 ●スポーツ教育研究センター長 ●スポーツ医科学研究センター長 △教務課 △いわた総合スポーツクラブ事務局	
	<入試> 1. 学校推薦型・総合型選抜・一般選抜入試の確実な実施のため、教職員一体となった会議を開催する 2. 総合型選抜でのオープンキャンパス参加型、諸活動評価型、スポーツプレゼンテーション入試の差別化を図る 3. コロナ禍に対応するオープンキャンパスや入試方法を計画的に行う ・オープンキャンパスでは、模擬授業（動画配信含む）を4つ程度開催する 4. 入学定員120名以上150名程度を確保する 5. 女子入学者比率30%を目指す ・女子学生入学者比率アップは大学の好感度にも学力偏差値にも比例すると言われる 6. 2021年度開設のスポーツ科学部受験生募集検討WGの有効活用を行う →入試業務は教職員が一体となり、入試委員会とスポーツ科学部受験生募集検討ワーキンググループが主導する。 オープンキャンパスは高校生に響く方法や内容を柔軟に変える。在校生の協力も積極的に導入する。 全国に先駆けて実施したスポーツプレゼンテーション入試合格者は20名、12月末の専願合格者を120名に設定したい。 特に、静岡県内外・女子への接触率を上げ、受験・入学に繋げる。	1. 入試の実施については、教職員の協議の下、組織的に実施されるように改革が進めている。 2. それぞれの入試型による種別の差異は、明確になっていると考えられるが、さらに広報を徹底していく。 3. 来学方式の対面型オープンキャンパスを実施しているが、動画配信と併用することにより、より多くの参加者を獲得できるよう計画している。 4. 入学定員については、年内120名を目標に努力するとともに、150名に近づけられるよう最大限の努力を行う。 5. 女子学生比率を上げるよう鋭意努力をしている。 6. ワーキンググループ会議を通じて、入試関係者の横断的な情報共有などを実施している。 事務局入試・広報室と入試委員会のメンバーが、月1回開催するスポーツ科学部受験生募集検討ワーキンググループが連携して入試業務を主導しているが、更に密接な連携を図っていく。オープンキャンパスでは、2021年度よりも来学者が増え、県外からの高校生も増えている。また、スポーツプレゼンテーション対策講座では、約40名の受講生が熱心に参加した。		◎学部長 ●副学部長 △入試課 △高大連携・接続G △広報・メディア課	

	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<広報> 1. 大学ホームページにおけるスポーツ科学部情報発信の充実を図る 2. 動画配信の情報提供を行う ・スポーツ科学部紹介型、大学説明会型、Webオープンキャンパスの実施 3. 報道各社への情報提供（2021年度新聞掲載実績 約50件） ・スポーツ科学部の教員・学生の情報発信を積極的に行う →大学・スポーツ科学部の広報と、入試広報の協働と棲み分けを明確にする。 「いつ・何を・どこで・誰に・どのように」情報発信・提供するか計画立案は広報・メディア課が行う。 学部構成員は積極的な情報発信を行い、両者の情報共有がスムーズに行えるよう各運営委員は配慮する。	大学ホームページ、各メディア、広報誌への情報発信を積極的に行った（大學新聞、日経mook等）。入試・広報室とは入試委員の教員を窓口にしてスムーズな対応に努めた。 大学広報は広報・メディア課が中心となって充実度を増しているが、なお一層の大学、学部周知徹底を図る必要がある。		◎学部長 ●副学長 ●副学部長 △広報・メディア課 △高大連携・接続G	
	<地域貢献> 1. スポーツ・健康科学研究セミナーにより地域への啓蒙活動を行う 2. 地域の教育委員会・市民団体等との連携を図る ・磐田市教育委員会との連携（部活動への指導員派遣） ・静岡県との連携 ・教員免許更新への協力の提案を教育委員会に行う 3. 「ジュピロ飯」の普及・推進（本学部・磐田市・ジュピロ磐田・県環境農林専門職大学・商工会議所） 4. スポーツプラットフォームの推進（本学部・磐田市・ジュピロ磐田・静岡ブルーレヴズ） 5. 広域レベルの各種活動との連携及び貢献 ・スポーツ関係の公益社団法人、一般社団法人、NPO法人との大学及び教員の連携並びに参画の促進を目指す ・各種スポーツイベント（ジュピロマラソン、クラウンメロンマラソン等）への協力を行う 6. "産業フェアinいわた"でのスポーツ科学部のブースを出展し、地元企業等との共同活動を図る →1. 学部付置施設のスポーツ教育研究センター・スポーツ医科学研究センターはセミナー開催を実施。 2. 磐田市や県との教育連携強化（小中高への授業・部活動指導・講習会等の協力）を図る。 3. 産官学民協働プロジェクト「健康・食・スポーツで地域貢献」"ジュピロ飯"の普及推進（本学食堂、磐田市保育園・他食堂等）を行う。 4. スポーツプラットフォーム設立団体として関与する。 5. スポーツ団体（ジュピロ磐田・静岡ブルーレヴズ等）へのボランティア活動の仕組みを構築する。 6. 第12回産業フェアinいわた（11月11日）に出展する。	1.～6. 地域の教育委員会・市民団体等との連携を積極的に図った。静岡県教育委員会・磐田市との連携（部活動への指導員派遣）を図った。「ジュピロ飯」の普及・推進を図り、SSUジュピロ飯としても学生主体のメニュー化に結実した。磐田市とのスポーツプラットフォーム会議を3回開催した。広域レベルの各種活動との連携及び貢献の推進（静岡県すこやか長寿祭9/8、ジュピロマラソン11/13、クラウンメロンマラソン等）をしている。「第12回産業フェアinいわた」では両学部のブースを出展するよう準備をしている（11/11）。 1. スポーツ・健康科学研究セミナーを上半期に1回開催した。 2. 地域の教育委員会と連携し、学生の学校授業支援及び部活動指導員派遣の要請に対応、実際に派遣を行った。教員免許更新に代わる教員研修への協力体制は検討中。 2～6. 学部、スポーツ振興部、教員個人のいずれが関与しているのかの棲み分けができるように、今後検討していく。 2. 「磐田いきいき健康教室」を、磐田市広報を通じて募集し、開催した。		◎学部長 ●スポーツ振興部長 ●スポーツ教育研究センター長 ●スポーツ医科学研究センター長 ●教職センター長 ●総合研究所所長代理 △スポーツ振興部 △いわた総合スポーツクラブ事務局 △教務課 △教職委員会 △総合研究所	

スポーツ科学部	2022年度計画アクションプラン		上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
	<就職> 3年後の就職を見据え、教育委員会・スポーツ関連企業等との連携を図り、インターンシップ活動を推進する →インターンシップなどの協力体制が可能な企業を継続して探索する。		就職率アップのため、磐田市、同市教育委員会、西部地区産業界やプロスポーツ団体と協力関係を結んだ。2年生ではすでにインターン活動を開始している。 スポーツ科学部について地元企業への周知を図るため、就職委員長とキャリア支援課で検討を進めた。スポーツ団体と協力し、アスリート系学生のデュアルキャリアをテーマにしたシンポジウムの企画を進めた。在学生オリエンテーションにおいて、キャリア支援の授業やインターンシップガイダンスの情報提供を行った。		◎学部長 ●就職委員長 △キャリア支援課	
	<大学運営> 1. 経営学部との連携を図る ・磐田キャンパスの経営学部と互いに協力・補完し合う組織的な学内運営を図り、入学者確保、ブランド力向上、就職率確保等の相乗効果を目指す。 2. 教職員間の密な連携と情報共有 →・ランチミーティング（学長・両学部長）・運営委員会・将来構想WG・構成員による自由討議を開催し、情報共有に努める。2021年度懸案であった女性教員を採用する。		経営学部との差別化と共通課題の認識共有のため、理事長、学長、副学長、学部長間の連携を図った。		◎学部長 ●学部長	
	将来構想					
	項 目	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
	1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定（女性教員確保） ・完成年度に必要な教員数は13名であり、うち教授は7名である。 2. 将来構想ワーキンググループ（WG）開設 ・2022年度より開設し完成年度に向けて構想を練る。	1 教員人事計画を策定し、2022年度は女性教員採用。 2 将来構想ワーキンググループ案を半期に一度構成員と共有。	7月に公募を行い、女性教員確保に努めている。 将来構想WGを立ち上げ、隔月に一度、進捗状況を教授会で報告した。		◎副学長 ●学部長	
	3. 南交流センター再開発（200mトラックの設置等）の構想 ・2021年度も磐田市に相談したが、継続審議する。	3 経営学部改組案（特に磐田キャンパス経営学部）に共有し、スポーツ科学部との連携を図る	南交流センターグラウンドの整備について、検討を行った。 2021年度、南交流センターグラウンドに設置した観戦用ベンチのメンテナンスを9月に行う。		◎学部長 ●学部長 △総務課	